

令和2年度 第2回鳥取県地域自立支援協議会 医療的ケアを要する障がい児者支援体制部会 議事録

日 時 令和3年1月20日(水)
午後2時から午後4時15分
場 所 会場：県庁 第15会議室
オンライン会議 (CiscoWebex)
出席者 別添名簿のとおり

1 開会 ○部会長の選任…鳥取市基幹相談支援センター浦島委員を部会長とする。

2 議事

(1) 圏域の現状報告

①西部圏域報告(報告者：米子市 米田委員)

・前回(第1回)以降、協議の場を設けられなかった。今年度中に、西部の医ケア部会を開催したい。

②中部圏域報告(報告者：中部療育園 谷川氏)

- ・8月に中部圏域の医ケア部会を開催した。短期入所に課題について検討した。
- ・中部では、医療型短期入所(空床型)を利用する際、日程調整等を頑張っても病院の事情で急な中止が生じるため、保護者への負担感が大きい。遠方でも確実に使える療育センターや鳥取医療センターの利用も仕方ないという意見もある。いざというときに圏域内に利用できる短期入所がないことが共通した不安感としてある。
- ・医療型短期入所を受けている3医療機関への聞き取りも行った。いずれも空床型であり、コロナの時期に確実にベッドを確保することが困難とのこと。ヘルパーの確保も難しいと言われている。
- ・圏域内で医療的ケア者が利用する事業所が増えてきているが、お互いの状況を知らない。困りや確認したいことなどを各事業所に聞き取りをして、勉強会をしていきたい。
- ・医ケア部会の構成は、医療的ケア児等コーディネーターと行政がメンバーに入っているが、日常的にケアにかかわっている訪問看護の方等にも加わってもらいたいと考えている。

③鳥取市報告(報告者：鳥取市 竹内氏)

- ・今年度の協議会は、新型コロナの関係で未開催。
- ・地域の状況としては、4月に医ケア児等が利用できる事業所(児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護等)が市内に開所した。5月には医療型短期入所の新規開始もあった。身近なところでのサービスの充実がすすみつつある。

④東部4町報告(報告者：八頭町 中浦氏)

- ・年4回(6月、9月、12月、3月)、東部4町障がい者地域自立支援協議会をしている。委員に教育関係者などにも入ってもらい、医ケアについても、課題共有、現状整理・検討をしている。本日の、県の医ケア部会の内容も持ち帰り4町で共有していく。
- ・4町では、対象となる方が少ないため具体的な議論として上がりにくい面もあるが、単町で個別に支援について協議をして対応している状況はある。
- ・八頭町では、昨年4月から医療的ケア児の通学児があり、登校回数を増やせるよう送迎について関係者で集まって協議をしている。手上げをした事業所もあったが、法人格の問題で福祉有償運送の指定など難しいこともあった。単町で車や看護師を依頼することも検討するが、朝夕に対応できる人材確保が難しく、なかなか進まない。

〈意見交換〉

光岡) コロナが長引く中、短期入所の利用がままならず、地域が困っている。圏域で連携して対応できないか。

汐田) 新型コロナウイルス感染症の警報中は、療育センターでは、短期入所を制限している。

コロナが起こってから、様々なサービスを組み合わせて地域生活をするのが難しくなっている。療育センターには入所児がいるため、感染対策を完全にできない中での利用者の出入りを通常通りにはできないが、その中でもできる方法を検討している。

光岡) 療育センターだけでなく県庁も一緒に考えてください。

中井) 圏域からの報告があったが、それぞれ対象者の人数と、何が本当に必要かを検討することが必要と思う。コロナで一年経過して、本当に困っている声をまとめないといけない。

安本) 八頭町の報告にあったように、本校でも呼吸器の方が年々増えている。看護師がスクールバスに同乗できない。保護者の送迎が難しい場合に、登校できないということにならないように市町と実態を共有しながら対応を考えていきたい。

(2) 令和2年度医療的ケア児等コーディネーター養成研修報告と今後の体制について

※事務局より、資料④について説明

〈意見交換〉

光岡) 90名以上コーディネーターを養成したところ。今後フォローアップをしていく。さらに力をつけるために意見交換できる場を作っていくといけない。医療的ケア児等コーディネーターが、何をやる人なのかという位置づけが不明瞭という声もでている。国は総合調整をする人と示しているが、具体的な役割を整理した方がいい。今は、コーディネーターの所属先によって役割が異なっている。整理に取り組むことが必要。

山根) どこに所属するかで役割が違うので、求められている機能や、各コーディネーターがどういったことに従事しているかの整理をしていくとよいだろう。

中井) コーディネーター養成研修に関して、資料④では北栄町が未設置になっている。しかし、北栄町では、町外の事業所に委託をしている。よって、町の障害福祉計画では、町としてのコーディネーターは配置済みになっている。委託をすれば、町内にコーディネーターがいなくてもOKなのか。町内にもいないといけないのではないのか。

事務局) 資料は、コーディネーター養成研修修了者の配置状況を記しているが、町外の事業所への委託についての考え方を整理します。

(3) 新型コロナウイルス感染症関連の情報提供

※事務局より、資料⑤について説明

〈意見交換〉

光岡) ただでさえ地域資源が少ないが、コロナでさらに利用制限が加わっており、生きた心地でない方もある。根本的解決にならなくても手立てを打たなければならない。

PCR検査が個人に求められた時に、費用助成はしてもらえないか？

事務局) 社会福祉施設において、行政検査の対象にならず自主検査をする場合には、費用の2分の1を補助する方針。現在の計画では職員が対象。利用者を対象とするのは、感染症状がある際の行政検査になる。利用者が任意の時の補助はない。

事務局) サービスを利用するにあたり、検査を求められた場合の対応については、どこまで対象を広げるかという整理が必要。医療的ケア児等に特化するのかなど、持ち帰り検討をする。

光岡) 医ケア児だけではないと思う。検査を求める側の問題ということになっても、求める側も他の人を守る意図があるので仕方がない判断と思われる。求められた側の責任でもなく、求めた側の責任でもない。円滑にするためには手立てが必要ではないか。どういう場合に補助をするのかという制度設計はしないといけない。

浦島) 行政のいう検査対象者の線引きが難しい。今は陰性だけど陽性になる可能性のある方については行政検査の対象にならない。偽陰性の人を対象とするのは難しいだろうか。

光岡) 先日の西部の施設では、一度全員を検査して陰性だったが、その後の追加検査は施設の負担で対応した。

藤原) 自分のところの事業所では、県外から親戚などが帰省してきたら事前連絡をもらうようにしていたが、年末年始に親族が県外から帰省していたことが後日判明することがあった。事業

所としては、事前に教えてもらえないと対策が取れない。検査をして、陰性等がわかれば他の事業所にも連絡のしようもあるが、検査を拒否されることもある。補助金があれば、検査を受けてもらうことも可能かもしれない。文書で周知をしていますが、利用者のモラルによっても対応が左右される。

有馬) コロナについてだが、療育センターの短期入所の対応が二転三転して、その結果働けない方、ショートが利用できず生活ができない方がある。東部の鳥取医療センターを利用すると、遠方なので毎日会えなくなる。療育センターがダメなら、近くで他の病院のショートステイの受け入れを広げてほしい。また、入院も鳥大まで行かなくても地域の病院で入院させてもらえるといい。コロナがあってもなくても逼迫している人がいる。

光岡) 汐田院長の説明では、療育センターは、コロナ警報期間中は短期入所を受けないという方針。利用日数に関わらず、受けない方針を出している時期がある。個別の状況で受け入れをなんとか検討できないかという話をしていた。あと半年、一年とこの状況が続けば生活ができなくなる。一方、鳥取医療センターは、今は一切受けないという状況ではないようだ。

事務局) 確認したところ、鳥取医療センター、松江医療センターともに現時点では短期入所を受けているが、今後の状況次第では利用を停止される可能性はあるとのことだった。

(4) 情報提供：「防災対策の検討のためのアンケート調査結果について」

※総合療育センター汐田氏より、資料⑥について説明

〈意見交換〉

後藤) 調査をありがとうございました。緊急時に、保護者はまずどこに連絡をするといいのか、どこで支援をしていただけるのかについて、PTAでも引き続き考えていく。避難計画について、両親、相談支援専門員、学校、病院など、引き続き一緒に考えて行けたらいいと思う。

光岡) 災害対応について、療育センターの取組状況を教えてください。

汐田) 自家発電もあり、病院でもあるので、望まれている支援についてどう対応するかを検討していく。過去には、個別にSOSを出された方に対応してきたが、どのようなシステムにして対応していくかを検討していく。

光岡) 蓄電器の補助などを行っている県もある。医ケア児特有の手立てを立てられないだろうか？調査結果からは、避難計画を立ててない人がほとんどだった。避難計画が作られている方があれば、普及していくことが必要。作られたものがなければ、1人の人の計画を作ってみて検証、普及する作業が必要だろう。

浦島) 鳥取市の自立支援協議会では、サービス等利用計画を利用して災害時の避難のことなどを入れ込めないかということで検討をしようとしている。

山根) 汐田院長の報告や後藤さんから、避難計画の話があった。市町で進めていくのだろうが、避難計画を作るにあたって、医ケア部会でできることはないだろうか。

藤原) うちの子も障害がある。鳥取市は、まず地域避難所に行って、そこから福祉避難所に移動するしくみ。うちの場合は公民館にまず行く。次に移るまでに時間がかかる。各市町で、行き先を示してもらっておくと、避難の時間なども想定しやすい。事前に行き先がわかっていたら保護者も安心する。

浦島) 地域避難所から福祉避難所への流れをわかりやすく示してもらいたい。福祉避難所には家族みんなで行けないから、行かないという方もあった。

米田) 米子市では、いくつか施設に福祉避難所をお願いしているが、キャパは未知数のところがある。地域避難所から福祉避難所に移動する判断基準も明確でない。サービス等利用計画に避難計画を組み入れること等を自立支援協議会の災害対策部会を中心に話をしている。

中井) 北栄町では、H25年の体制整備で自立支援協議会から要望して、町直営の福祉避難所を2箇所開設してもらった。その直後に中部地震があり、福祉避難所に何名か避難した。地域避難所と福祉避難所を同時に開設すると、一般の人も福祉避難所にどっと押しかけるということが懸念され、公表はしなかった。公表をしなかったことについて、後から意見はあ

った。毎年、北栄町は避難訓練をしているが、今年はコロナで2月の訓練は中止となり、3月に民生委員と協議の場を設ける。ハード面で、発電機などの備品購入も進めつつある。この動きは湯梨浜町、琴浦町、倉吉市にも伝わっており、各自治体で対応しているのが中部の状況。

浦島) 部会で取り組めることについて、具体的にはどのようなことが考えられるか。

山根) 発電機の要望などを全県ですとか、避難計画の情報共有など。県の部会で取組を確認して市町に持ち帰るか。体制を整えるところを部会ですか。

光岡) 直接県の部会ができることは多くないが、東部で検討すると言われていたように、各圏域から2、3計画を立て持ち寄って、何が足りないのか、ネットワークがどう足りないのかを取り組むのはどうか。

例えば、特別支援学校を福祉避難所として開放してもらうのはどうか。入所施設には生活している人が元々いるので多くは受け入れられない。災害時は家族も避難してくるようになるので、広さのある特別支援学校を開放してもらうのはどうだろう。

事務局) 特別支援学校が避難所になっているところもある。市町村から相談があれば前向きに検討する。電源については、3時間程度なら自家発電で対応できるようにしているが、長時間の対応になると燃料不足等の課題はある。学校には寝具もないので、市町村から拠出してもらうなど対策を考えないといけない。

光岡) 特別支援学校が避難所になっていることを初めて聞いた。市町村は知っているのか。

事務局) 知っている。保護者からも相談があるので、学校と相談してもらって進めるようにしてもらっている。前向きに検討したい。

光岡) 米子市の場合は、一次避難が地域避難所、二次避難が福祉避難所だが、他はどうか。

事務局) あくまでも市町村の計画に基づいて定めてもらえればと思う。

山根) 山間地域は、特別支援学校まで行くことが難しい。小学校単位で対応するにしても、普段使っていない場所になる。遠方からは特別支援学校が避難所になっても現実的ではないので、ほかの手立てを考えておかないといけない。

浦島) 居住地から避難所への距離は重要な要素。学校は体育館等もあり利用しやすいが、遠い人には使いにくい。保護者と個別に相談をしていくのがよい。

安本) 鳥取養護学校での受け入れ規模は、災害の程度にもよるが、誰と一緒に避難するかにもよる。現在60名在籍があり、家族と一緒に避難して来るとなると、どこまで対応できるだろうか。個別の聞き取りをしていくことが急務。

事務局) 特別支援学校でも、医療ケアの方をたくさんは受けられない。電気等の関係である程度制限をしないとイケない。災害時の移動のこと、医療のこともあるので市の方とも相談しながらの対応になる。なるべく多く受けたいが、キャパ的に難しい部分がある。

3 閉会

○挨拶(事務局:谷口課長)

総合療育センターからの防災対策のアンケートの話など今後の取組に参考になる報告をたくさんいただいた。また、圏域からの報告では実態を知るよい機会となった。普段の生活でも厳しさがある中、さらにコロナの影響でさらに厳しい状況になっているが、事業所も含めて皆様の理解と協力で何とか乗り切っていけるよう考えていかなければならない。

令和3年度の前算については、次回の部会で説明させていただく。

資源が少ない中、今後も皆さんと一緒に頑張っていきたい。本日はありがとうございました。